

緊急医療援助活動について

AMDA代表 菅波 茂

AMDAとは

AMDAは国連認定多国籍医療NGOとして現在世界に18支部があり3月31日現在26ヶ国で40以上のプロジェクトを実施しています。目的は平和を志向する憲法に基づく「人道援助大国」の実現です。戦後50年の現在の平和は単に戦争がないということでは不十分です。世界中の人達が共有できる価値観は「今日の家族の生活と明日の希望」です。この価値観が実現できる状況が「平和」です。この「平和」を疎外する要因として戦争、災害そして貧困があります。AMDAは戦争や内乱による難民や被災民そして災害による被災民に緊急人道援助を実施しています。目的は相互理解と相互支援による相互信頼の確立です。この相互信頼こそが偶発的戦争を予防できるという民間からのアプローチです。行動規範は「困ったときはお互い様」という「相互扶助思想」です。具体的には左記の3つの方法論で実行しています。

- (1) アジア多国籍医師団
- (2) アジア太平洋緊急救援機構
- (3) 緊急救援と開発のための国際NGOネットワーク

最初にアジア多国籍医師団について説明します。AMDAの緊急救援を特化した部門です。災

害や難民が発生したときに現場に瞬時に派遣される参加国の医師の合同チームです。「アジアのヒューマニズムを世界に」がスローガンです。現在ではソマリア難民、ルワンダ難民、アンゴラ難民、ブータン難民、旧ユーゴ難民等に派遣されています。

次にアジア太平洋緊急救援機構について説明します。アジア太平洋地区の自然災害に対するNGOの相互支援機構です。アジアのみならずアメリカ、カナダそしてロシアのNGOも参加しています。インドネシアの地震、メキシコの地震、フィリピンの台風、マレーシアサラワク州の台風、パングラデシュの竜巻等々の被害者救援活動を実施しています。

最後に緊急救援と開発のための国際NGOネットワークについて説明します。アジア、アフリカ、ラテンアメリカそしてヨーロッパのNGOが参加しています。医療、教育、環境、地域開発そしてWID等の地域開発のプロジェクトを実施していますが、自然災害が発生した緊急時には相互支援を行うネットワークです。

人道援助の三原則

思いもたなくさんあります。サハリン大地震救援活動の時、在留邦人の方が戦後初めて日本人だ



サハリン大地震緊急救援
ヘリコプターの中で診察中のAMDAスタッフ（秋山医師）

PROFILE

菅波 茂(すがなみ しげる)
1946年広島生まれ。1972年岡山大学医学部卒業。1976年同大学院医学研究科修了。岡山保健所、岡山大学医学部勤務等を経て1981年菅波内科医院を開業する。1984年AMDA(アジア医師連絡協議会)、1991年AMDA国際医療情報センター、1993年アジア多国籍医師団を設立する。1996年7月現在、28ヶ国、42ヶ所で国際援助活動を実施中。

と胸をはることができたと感謝していただきました。ルワンダ難民救援活動のとき、ゴマの難民キャンプ診療所で生まれた男の子にお母さんが「アムダ」と希望して名付けました。ヨルダンがイスラエルに爆撃され多数の避難民が出現。救援に駆

つけた我々もアジア人だ。同じアジア人である日本から来てくれてうれしいと言われました。アジアでは反政府側地区で活動しているAMDAのローカルスタッフが白昼2名も殺され撤退を真剣に考えましたが、反政府側が村ぐるみの警護体制をとってくれたので救援活動を続行しています。アジア多国籍医師団にはアフリカの医師たちも参加を希望していました。ルワンダ難民救援活動のとき、東京にあるアフリカ大使館に「アフリカ多国籍医師団構想」を提示しましたら、15ヶ国大使から支援と医師派遣希望がありました。ここでAMDAの「人道援助の三原則」を紹介

- (1) 誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある。
- (2) この気持ちに国境、民族、宗教等の差はない。
- (3) 援助をうける側にもプライドがある。

このプライドとは自分たちも役に立ちたい、社会から必要とされたいという切実な気持ちを援助される側も常に持っているということです。このプライドを無視したプロジェクトは失敗する可能性があります。アジア多国籍医師団、アフリカ多国籍医師団そしてラテンアメリカ多国籍医師団と兄弟医師団が誕生するのも1-2年以内だと思います。

以上の特徴ある3つの緊急人道救援活動方法ですが国連、国際機関、日本政府、現地政府、企業等々と密接な連携をもって効果的に実施しています。

青年海外協力隊との関わり

ここで青年海外協力隊のOB・OGの皆様とAMDAとの密接な関係について紹介します。OB・OGの方がAMDAの下記の3ヶ所で働いています。皆さん優秀な方ばかりです。

- (1) AMDA本部事務局
- (2) 海外フィールド(UNVとしても派遣されています)
- (3) AMDAのJICAプロジェクト

AMDAのJICAプロジェクトはザンビアとフィリピンのPHCプロジェクトです。ザンビアでは地域コミュニティでの「貧困と健康」プロジェクトが実施されており、調整員、長期および短期専門家としてOB・OGの方が参加されています。JICA-AMDA-JOCVの3者連携はODAの新しいモデルになると確信しています。フィリピンのタラック州のJICAの母子保健プロジェクトは母子手帳、教育ビデオそして現地NGO/NPOと連携した住民参加型の薬生協が特徴です。「NPO法案をつかった国会議員にはNPOを育てる責任がある」。この大義のもとに熊代昭彦衆議院議員を団長に森暢子前参議院議員とAMDAから2名が1月21日より3日間フィリピンを訪問しました。フィリピンは知る人ぞ知る「NGO/NPO先進国」です。NGO/NPOの組織運営、現場のプロジェクト運営そして政府との棲み分けと協力関係は参考になります。結論として「AMDA国際ボランティア研修センター」設立をNPO法案の成立と文部省ボランティアカリキュラム化に備えて進めることになりました。

AMDA国際大学設立へ向けて

最後に広島県はJICA中国支部と協力して国際協力センターを本年4月から発足させました。AMDAは国際ボランティア養成のため広島県と共催でAMDA/NGOカレッジ講座を7月に開催します。スタディツアーとしてアジアのAMDAのフィールドも視察研修していただく予定です。これはAMDA国際大学設立に向けての第一歩です。AMDA国際大学は国際公務員養成とともに非営利団体の組織運営のプロとしてプロジェクト運営のコーディネーターの育成を目的としています。設立できれば世界で初めてのNGOによる大学となります。

今後ともに皆様のご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。



フィリピンプロジェクト現場の視察・前列右から3番目が熊代昭彦衆議院議員、その左が森暢子氏、後列右から2番目が筆者菅波氏